

レジアンダー

施工のポイント

アサヒボンド工業株式会社

目 次

共通事項	1
ウレタン防水の下地調整	2
下地調整を兼ねた仮防水	3
超速硬化ウレタンの下地調整	4
FRP防水の下地調整	7
各種シート防水の下地調整	8
塗り床材の下地調整	9
連続繊維シート補強工法・ライニング工法の下地調整	10

共 通 事 項

調合について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 混和液を混合してから粉体を徐々に加えて下さい。 ・ 粘度調整する場合は粉体の量を減らして下さい。 ・ 粉体を減らすことは問題ありませんが、粉体・水の増加は性能の低下につながります。
ローラー刷毛について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粉体を2～3割減らすとローラー刷毛で塗布できます。 ・ ローラー刷毛推奨品 重防ローラー（大塚刷毛製造製）繊維断面が円形で凹凸がないため、粉体のはき出しが良い。
施工上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下地は十分な清掃を行って下さい。 ・ 粉体調合がシゴキ用のため、厚付けができません。塗り厚 0.5mm が標準です。厚塗りするとひび割れが発生します。 ・ 厚付けや水勾配を調整したい場合は、レジアンダー厚付速硬化粉体（1～50mm）や、レジアンダー不陸調整粉体（1～5mm）を使用してください。 ・ 残存する下地が溶剤に弱い材質の場合、溶剤系プライマーの使用は厳禁です。レジアンダーは溶剤に強いが溶剤は透過します。溶剤系プライマーを使用すると下地の溶解で剥離する危険性があります。
養生について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下地が乾燥した状態で薄塗りした場合は、短時間で乾燥しますが、下地に吸水性がない場合や厚く塗った場合は乾燥が遅くなります。気温・風速・日射等自然環境により乾燥時間は異なります。 ・ 下地が高湿潤状態でも確実に接着しますが、乾燥までに長い時間がかかる場合があります。
対応できない下地	<ul style="list-style-type: none"> ・ フッ素系トップコート、塩ビシート、ゴム（EPDM）シート、油面等 確認できていないものもあります。 ・ 既存のアスファルトが残存し、新規防水がトーチ工法の場合。レジアンダーをトーチであればると、下のアスファルトからガスが発生し、レジアンダーが部分的に剥離してしまいます。 ・ ウレタン系塗り床材・防水材・塗料・接着剤は接着良好ですが、ウレタン系シーリング材は若干付着力が落ちます。 ・ ゴム（EPDM）シートやシルバートップは「ゴムエースP」で対応できます。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ この他にも具体的な製品についての知見もあります。 ・ ご不明な点がございましたら当社までご連絡下さい。 ・ データのないものでも、被着体をご提供いただければ、当社は積極的に接着試験を行います。

ウレタン防水の下地調整

- ・レジアンダー塗布後、当日ノンプライマーでウレタン防水材が塗布できます。
- ・養生時間 表面全体が乾燥（色で確認）した状態となるまで

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
	無溶剤プライマー として使用	混和液のみ	刷毛・ロー ラー	約 0.1~0.15 粗面は状態による	吸い込みが激しい場合は追い塗りが必要です。
アスファルト 防水層撤去後	残存するアスファ ルトとの仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	0.6~0.8	密着していないアスファルトは残さないよう撤去し、残存アスファルトを溶かす恐れがあるので、ノンプライマーで施工して下さい。アスファルト類に対し優れた付着性を有します。
砂付きルーフ ィング（シルバ ートップも可）	砂付きルーフィン グ・シルバートッ プとの仲介接着	混和液：粉体= 1 : 1	刷毛 ・ローラー	0.2~0.3	シルバートップに対し接着良好です。ローラーで施工する場合は、水を添加せずに粉体を減量して下さい。
ゴムシート防 水層撤去後	ゴムシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有します。
塩ビシート防 水層撤去後	塩ビシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	NBR系・エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水 層撤去後（通気 緩衝工法）	通気マット用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	ネオプレン系・ウレタン系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水 層	ウレタン防水層と の仲介接着	混和液：粉体= 1 : 1	刷毛・ロー ラー	0.12~0.15	混和液のみだとはじきが起こる場合があります。粉体を入れるとはじかなくなります。ウレタン防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
ポリマーセメント系防水材	溶剤による防水層の軟化防止及び仲介接着	混和液のみ はじきがある場合、水勾配が大きい場合 混和液：粉体＝１：１	刷毛・ローラー	混和液 0.10～0.12 １：１配合 約 0.12～0.15	レジアンダー混和液は耐溶剤性に優れ、下地への溶剤透過も軽減するので既存下地の溶剤による軟化を抑えます。ウレタンプライマーの使用は厳禁です。ポリマーセメント系防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。
ポリエステルFRP防水材	不飽和ポリエステルとの仲介接着	混和液：粉体＝１：１	刷毛 ・ローラー	１：１配合 約 0.12～0.15	接着力確保のため、トップのパラフィンサンディングにより除去して下さい。不飽和ポリエステルに対し優れた付着性を有します。
磁気質タイル	下地との仲介接着	混和液：粉体＝１：１	刷毛 ・ローラー	１：１配合 0.12～0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
ガラス					
鉄					
ステンレス					
アルミ	アルミとの仲介接着	混和液：粉体＝１：１	刷毛・ローラー	0.12～0.15	アルミに対し接着良好です。アルミとセメントが直接接触すると、反応により水素ガスが発生します。１：１配合で、アルミとセメントとの反応による接着不良の報告はありませんがご注意ください。

下地調整を兼ねた仮防水

・ 通常配合で塗布乾燥後、混和液を塗布し含浸させると、極めて透水性の低い塗膜が形成されます。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
各種下地	下地調整プラス仮防水	下塗り 通常配合 上塗り 混和液のみ塗布	下塗り コテ 上塗り 刷毛・ローラー	下塗り 通常配合 0.8～1.0 上塗り 混和液約 0.1～0.15	下塗りは通常配合でコテしごきを原則とします。表面全体が乾燥したら、混和液を上塗りします。混和液が乾けば即仮防水効果が期待できます。硬質塗膜なのでひび割れの動きには追随しません。貫通ひび割れには要Uカットシール

超速硬化ウレタンの下地調整

- ・ 通常配合で下地調整後、混和液を上塗りすると、超速硬化ウレタン施工時に発生するピンホールを抑えます。
- ・ 新たにプライマーを塗布する必要はありません。
- ・ 養生時間 下塗り乾燥後上塗りし、上塗りが乾燥してから約2時間

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 通常配合 2回塗り 上塗り 混和液のみ	下塗り コテ 上塗り 刷毛 ローラー	下塗り 平滑面 0.6 ~0.8/回 粗面は状態による 上塗り 0.1~0.15	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
アスファルト 防水層撤去後	残存するアスファルトとの仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 通常配合 (刷毛・ローラーの場合は粉体を2~3割程度減量) 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による 上塗り 0.1~0.15	密着していないアスファルトを残さないよう注意して下さい。プライマーを使用すると残存アスファルトを溶かす恐れがあるので、ノンプライマーで施工して下さい。アスファルト類に対し優れた付着性を有します。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
ゴムシート防水層撤去後	ゴムシート用接着剤との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 通常配合 (刷毛・ローラーの場合は粉体を2～3割程度減量) 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.8～1.0 粗面は状態による 上塗り 0.1～0.15	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有します。
塩ビシート防水層撤去後	塩ビシート用接着剤との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 通常配合 (刷毛・ローラーの場合は粉体を2～3割程度減量) 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.8～1.0 粗面は状態による 上塗り 0.1～0.15	NBR系・エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水層撤去後 (通気緩衝工法)	通気マット用接着剤との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 通常配合 (刷毛・ローラーの場合は粉体を2～3割程度減量) 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.8～1.0 粗面は状態による 上塗り 0.1～0.15	ネオプレン系・ウレタン系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水層	ウレタン防水層との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 混和液：粉体=1：1 上塗り 混和液のみ	刷毛・ローラー	下塗り 0.12～0.15 上塗り 0.1～0.15	混和液のみだとはじきが起こる場合があります。粉体を入れるとはじかなくなります。ウレタン防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。
ポリマーセメント系防水材	溶剤による防水層の軟化防止及び仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	混和液のみ はじきがある場合、水勾配が大きい場合 混和液：粉体=1：1	刷毛・ローラー	混和液 0.10～0.12 1：1配合 約 0.12～0.15	レジアンダー混和液は耐溶剤性に優れ、下地への溶剤透過も軽減するので既存下地の溶剤による軟化を抑えます。ウレタンプライマーの使用は厳禁です。ポリマーセメント系防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
ポリエステル FRP防水材	不飽和ポリエステルとの仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	混和液：粉体＝1：1 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	1：1 配合 0.12～0.15 上塗り 0.1～0.15	接着力確保のため、トップのパラフィンサンディングにより除去して下さい。不飽和ポリエステルに対し優れた付着性を有します。
磁気質タイル ガラス 鉄 ステンレス	下地との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下混和液：粉体＝1：1 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	1：1 配合 0.12～0.15 上塗り 0.1～0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
アルミ	アルミとの仲介接着	混和液：粉体＝1：1	刷毛・ローラー	0.12～0.15	アルミに対し接着良好です。アルミとセメントが直接接触すると、反応により水素ガスが発生します。1：1配合で、アルミとセメントとの反応による接着不良の報告はありませんがご注意ください。

FRP防水の下地調整

- ・ レジアンダー塗布後当日プライマーが塗布でき、連続してFRP防水まで施工できます。
- ・ レジアンダーは耐溶剤性に優れているので、短時間の養生でもリフティングを起こしません
- ・ FRP防水材の専用プライマーは必ず塗布して下さい。プライマーを塗布せず直接FRP防水材を施工すると、レジアンダー表面の未反応アミンにより硬化不良や接着不良を起こします。
- ・ 養生時間 表面全体が乾燥してから約1時間後

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
磁気質タイル ガラス 鉄 ステンレス	下地との仲介接着	下 混和液：粉体=1：1	刷毛 ・ローラー	1：1配合 0.12~0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
アルミ	アルミとの仲介接着	混和液：粉体=1：1	刷毛・ローラー	0.12~0.15	アルミに対し接着良好です。アルミとセメントが直接接触すると、反応により水素ガスが発生します。1：1配合で、アルミとセメントとの反応による接着不良の報告はありませんがご注意ください。

各種シート防水の下地調整

- ・ レジアンダー塗布後当日プライマーが塗布でき、連続してシート防水まで施工できます。
- ・ レジアンダーは耐溶剤性に優れているので、短時間の養生でもプライマー・接着剤の溶剤によるリフティングを起こしません
- ・ 養生時間 表面全体が乾燥してから約1時間後

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
ゴムシート防 水層撤去後	ゴムシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は状態による	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有しま す。
塩ビシート防 水層撤去後	塩ビシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	NBR系・エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有しま す。
磁気質タイル ガラス 鉄 ステンレス	下地との仲介接着	混和液：粉体=1：1	刷毛 ・ローラー	1：1配合 0.12~0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を 有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
アルミ	アルミとの仲介接 着	混和液：粉体=1：1	刷毛・ロー ラー	0.12~0.15	アルミに対し接着良好です。アルミとセメントが直接触れ ると、反応により水素ガスが発生します。1：1配合で、 アルミとセメントとの反応による接着不良の報告はあり ませんがご注意ください。

塗り床材の下地調整

- ・レジアンダー塗布後当日、ノンプライマーで塗り床材が塗布できます。
- ・フォークリフト・台車等の通路に通常配合を使用する場合は、プライマーを上塗りして下さい。
- ・養生時間 表面全体が乾燥してからエポキシ系は約1時間後、ウレタン系は約2時間

・旧床材がある場合、表面処理として研磨が必要です。(要注意点)

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は別途	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
	無溶剤プライマー として使用	混和液のみ	刷毛・ロー ラー	約0.1 粗面は別途	吸い込みが激しい場合は追い塗りが必要です。
エポキシ系塗 り床材	エポキシ系塗り床 材との仲介接着	下地調整含む 通常配合、 プライマーとして 混和液:粉 体=1:1	コテ・刷毛 ・ローラー	通常配合 0.6~0.8 1:1配合 0.12~0.15	旧塗膜がはく離している部分は通常配合でコテ仕上げ、そ の他は混和液:粉体=1:1配合でローラーにより施工し て下さい。
ウレタン系塗 り床材	ウレタン系塗り床 材との仲介接着	下地調整含む 通常配合、 プライマーとして 混和液:粉 体=1:1	コテ・刷毛 ・ローラー	通常配合 0.6~0.8 1:1配合 0.12~0.15	旧塗膜がはく離している部分は通常配合でコテ仕上げ、そ の他は混和液:粉体=1:1配合でローラーにより施工し て下さい。

連続繊維シート補強工法・ライニング工法の下地調整

- ・連続繊維シート工法・ライニング工法のフクレの原因となる、コンクリート表面の巣穴・豆穴を修復できます。
- ・含浸接着用樹脂がメタクリル系の場合は使用できません。
- ・養生時間 表面全体が乾燥してから約1時間

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート	巣穴・豆穴等の修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は別途	コテで擦りこむようにシゴキ塗りして下さい。巣穴・豆穴の修復の場合は必ず2回塗りして下さい。2回塗りで修復できなかった箇所は、部分的なタッチアップをして仕上げして下さい。